

水土里ネットちば

Chiba Prefectural Federation of Land Improvement Association



第14回 写真コンテスト 千葉県土連会長賞「大豆収穫の頃」

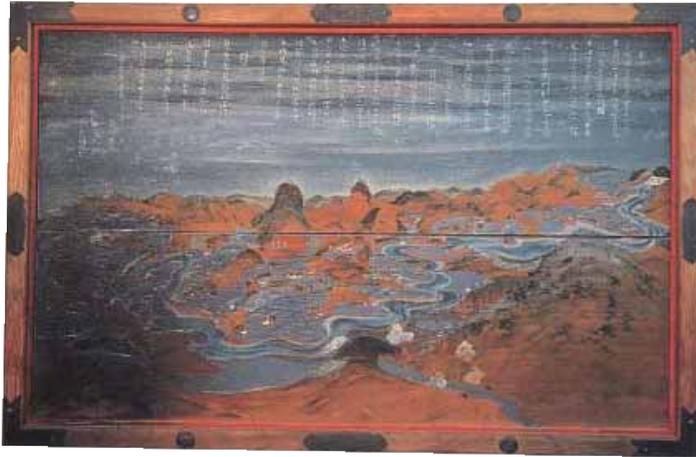
2008
AUTUMN

No.281

CONTENTS

口絵「平山用水開墾絵馬」「折木沢 猪ノ川溪谷」	
土地改良区事務局長就任にあたって	1
国の概算要求の状況	2
全国土地改良大会（秋田大会）	4
「水の週間」中学生水の作文コンクール入賞作品	5
第14回 美しい農村環境写真コンテスト 表彰式・作品評	9
初めてのイベント“交流会及び講演会”を開催（女性の会）	13
印旛沼地区の県管理機場巡視点検の実施	14
基幹水利施設ストックマネジメント事業 鎗木川地区	16
経営体育成基盤整備事業（集落営農型）篠本新井地区	18
農地・水・環境保全向上対策推進のための農業体験バスツアーを振り返って	20

馬給墾開用水平山



君津市平山823・大原神社
君津市指定文化財（昭和61年3月31日指定）

平山用水とは、江戸時代後期において亀山の稲ヶ崎地先を取水口として、平山の大原台地先に至るまで約16キロメートルにわたって農民が造り上げた農業用水路のことをいう。

当時、平山村（現君津市平山）では、目の前を流れる小櫃川は川水が大変低く、田畑のかんがいには利用できず、人々の生活は困窮をきわめたと伝えられる。そこに平山の人で鈴木三郎左衛門が用水建設を思い立ち、村民連署し願書を再三にわ

たって領主に提出し、天保4年（1833年）3月、工事の許可がおりた。

この用水路は、幅60センチ、高さ150センチのトンネルと掛樋^{かけとい}によって、平山村へ水を導くものであった。3年4ヶ月を経た天保7年（1836年）7月、工事はようやく完成する。工事に携わった人々は延べ約39,000人といわれている。

この平山用水は、県内の農業用水の先駆的役割を果たし、絵馬はこれらの様子を伝える上で貴重な資料である。

久留里城址資料館に展示（写真は、君津市ホームページより引用）

（絵馬は、たて142センチ、よこ214センチの大きなものである。）

折木沢の猪ノ川溪谷は、亀山湖の上流部に位置し、小櫃川の支流の中でも最も自然景観の優れた沢です。

JR久留里線の上総亀山駅で下りて、藤林大橋、亀山大橋を渡り神納橋を過ぎたところを右折し、しばらく行くと猪ノ川溪谷の入り口となる折木沢橋に着きます。

道路は整備されていて、とても歩きやすいです。少し歩いて素掘りのトンネルを抜け出ると、眼下に黒滝が見えます。

房総の紅葉は、関東地方で一番遅いと言われています。一度訪れてみてはいかがでしょうか。

黒滝の先には、東京大学千葉演習林があり敷地内の立入りは許可制になっていますが、公開日を設けて一部を公開しています。



紅葉の猪ノ川溪谷



黒滝

折木沢
猪ノ川
溪谷

土地改良区事務局長 就任にあたって

両総土地改良区

事務局長 とき 鴫 ざき 崎 かつ 勝 よし 善



本年4月1日付けで前高柳事務局長の定年退職に伴い、事務局長に就任致しました鴫崎でございます。

日頃、関係機関の皆様より当改良区の事業運営等に多大なご支援ご尽力を賜り心から感謝申し上げます。

両総地域は、利根川右岸から太平洋に面した九十九里平野の香取市他5市7町1村の受益地（水田13,559ha、畑4,406ha）に用水補給と排水改良を行っております。

この地域は、大きな河川がなく古くから天水に頼っていたため日照りが続くと早魃、そして降雨が続くと冠水の被害を受けておりました。このような状況を解消すべく立ち上がった先人達の努力により、第一期国営事業が昭和18年から昭和40年にかけて当時の技術の粋を集め、国内でも最大級の用排水施設（揚水機場3カ所、用水路78km、排水機場2カ所）が造られました。

両総用水の完成によって、農家の営農意欲が増大かつ安定し、両総地域は千葉県の大穀倉地帯となり、水田面積は県の20%を占め、首都圏の重要な食糧生産基地となりました。

両総用水は、農業用水として計画され使用してきましたが、千葉県の発展に伴い都市用水の需給が逼迫したことから、昭和52年度に生活用水、昭和61年度から工業用水としても両総施設を利用し、用水供給を行っております。

しかし、完成から30年以上経過し施設の老朽化が進み維持管理費の農家負担が増大したことから、第二期国営事業が施設更新事業として採択され平成5年度から平成24年度の完成を目指し工事が順調に進められております。

事業の特徴は、旧施設が開水路主体であったところを管水路による複線化とし、九十九里平野の広大な地域へ補給水を効率よく送水することが可能となり、合理的な用水管理を確立したことです。

また、施設の更新により土地改良区の管理形態も大きく変貌を遂げることと、昨今の農業情勢に鑑み、今後の施設管理のあり方として、以前より組合員から指摘のあった現行水量割賦課基準の在り方の検討を行い、7月の臨時総代会において、地積割に移行するとの議決がなされました。このことにより、改良区内の負担の格差がなくなり将来の集落営農、担い手による農地の集積等の取り組みが容易になることと確信しております。

一方、平成19年度からスタートした農地・水・環境保全向上対策では管内でも多数の共同活動、小学生が参加する施設見学会や農業体験、管内の行政が主催する産業祭にも積極的に参加し、「水・土・里」のPR活動を行い職員一丸となって、地域の活性化と両総施設の新たな認識が図られるよう努力して参ります。

終わりに、水土里ネット両総に対し、関係機関皆様のなご一層のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。就任の挨拶と致します。

平成21年度農業農村整備事業

農林水産省は8月末に平成21年度予算の概算要求を提出。
農業農村整備事業の概算要求額は729,996百万円（対前年比109.3%）。

概算要求の重点事項

- 1 国際的な食料事情を踏まえた食料供給基盤の強化**
食料自給率向上に向けた基盤・条件整備の推進
食料自給率向上に向け、小麦・大豆の効率的な作付けを可能とするほ場の大区画や排水条件改良等の整備、米粉・飼料用米等の利用促進を図るための施設整備、さらには実需者との連携の中で国産農産物の供給を強化する産地の基盤や施設の整備を推進。
担い手の育成と農地の有効利用、農業用水の安定的供給の確保
担い手を育成し、農地の有効利用を図るため、農地情報のデータベース化を推進するとともに、農業用排水施設の適切な整備・更新を図ることにより、農業用水の安定的供給を確保。
耕作放棄地解消に向けた取組の推進
食料供給力の強化を図るため、緊急的に耕作放棄地を解消する総合的・包括的な対策を推進。
- 2 地域資源の活用によるいきいきとした地域づくりの推進**
都市との共生・対流を通じた農山漁村活性化対策の展開
人材育成への支援、農山漁村集落の再生への支援、都市と農山漁村の共生・対流による地域経済活性化の推進を図るとともに、農商工連携の取組を促進。
農村協働力を活かした農地・水等の資源や環境の保全への取組の推進
農地・農業用水等の資源や環境の適切な保全と質的向上を図るため、地域ぐるみの共同活動や先進的な営農活動を支援する「農地・水・環境保全向上対策」を推進。
中山間地域等条件不利地域への支援
中山間地域等の条件不利地域において、農業生産活動の継続による多面的機能が確保されるよう、中山間地域等直接支払制度を着実に推進。
安全で安心して暮らせる農村づくり
政府全体で進める防災情報基盤の整備や防災・減災の観点を検討する中での、環境保全や親水面での利活用に資するため池の総合整備対策を実施。
都市農業の振興
都市住民のニーズなども踏まえ、都市部での農業体験が可能な都市の空閑地を利用した市民農園開設への取組を支援。
- 3 農山漁村からの低炭素社会の構築と地球環境問題への対応**
農山漁村における低炭素社会の実現
農村地域における低炭素社会の実現を図るため、温室効果ガス排出量に係る評価システムの構築及び排出量削減に資する施設整備等を支援するとともに、基盤整備による農地への炭素貯留手法を確立。
バイオマス利活用の推進
食料供給と競合しない稲わら等のソフトセルロースを原料とした国産バイオ燃料の生産拡大に向けた取組を支援するほか、農林漁業者等とのバイオ燃料製造業者が共同で行うバイオマスの取組等を強化。
生物多様性の保全への貢献
地域の生物多様性の保全を推進するため、特に保全を行う必要のある地域における環境の保全・形成に向けた取組を支援するとともに、整備後の水田等での生態系配慮対策を推進。

業 予 算 の 概 算 要 求 に つ い て

(単位:百万円)	
事 項	平成21年度要望額
農業農村整備事業	729,996
【農業生産基盤整備・保全等】	626,813
用排水施設の整備	252,801
・水利区域内農地集積促進整備事業(新規)	300
・地域農業水利施設ストックマネジメント事業(新規)	2,000
農地の整備	172,273
・耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業(拡充)	1,100の内数
・農地有効活用緊急基盤整備事業(新規)	2,000
農道の整備	32,939
農地の防災保全	108,467
・国営造成土地改良施設防災情報ネットワーク事業(新規)	1,560
・地域ため池総合整備事業(新規)	300
その他	60,333
・炭素貯留関連基盤整備実験事業(新規)	500
・水土里環境を守ろう特別支援事業(新規)	200
・水田環境向上基盤整備支援事業(新規)	50
【農村整備】	103,183
農業集落排水施設の整備	18,341
農村の総合的整備	44,398
・地域用水環境整備事業(拡充)	2,838の内数
中山間地域の整備	38,173
・農地環境整備事業(拡充)	1,378の内数
その他	2,271

自給率の向上を図るためには、農地・農業用水などの食料供給力がきちんと確保されることが不可欠です。水利施設の整備・更新・保管理は、我が国の食料供給力を確保する上で非常に重要です。今後、更新時期を迎える施設の増加に対応し効率的な保全・更新を進めるため、国営、県営造成施設について基幹水利施設ストックマネジメント事業がすでに導入されていますが、21年度要求においては、新たに、団体営造成施設を対象とした地域農業水利施設ストックマネジメント事業の創設が盛り込まれています。これらを通じて、基幹から末端までの一連の農業水利施設の保全・更新を効率的に進められるのではないのでしょうか。

また、土地改良施設維持管理適正化事業については緊急整備補修の拡充が盛り込まれております。予測し得ない事故等について、適正化事業の加入の有無に限らず発生することがあります。このため、専門指導員の診断・管理指導が行われた施設のうち、適正化事業への加入の有無に限らず、緊急整備補修の実施に差が生じないよう、適正化事業に加入しようとする施設に対し、地方土連が適正化事業実施計画を定め、当該計画に位置づけられた施設については、緊急整備補修が実施できる制度に拡充し、社会的資産である施設の適切な管理を図ろうとするものです。

第31回 全国土地改良大会 秋田大会 開催

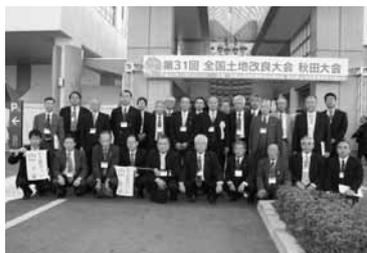
水土里ネット千葉 管理指導部



第31回全国土地改良大会秋田大会が10月14日（火）秋田市の秋田県立武道館において行われました。

今大会は、「あすを拓く大地 きらめく疎水 たくましき郷」を大会テーマに、食料自給率の低下や食の安全・安心に関する課題が山積する中、全国の土地改良関係者が一堂に会し、農業農村が担っている役割を広く国民にアピールすると共に、明日の活力ある農業農村づくりのために今できること・しなければならないことについて、考える場として開催されたものです。

大会式典では、水土里ネット秋田の高畑会長、全国水土里ネットの野中会長、秋田県知事、秋田市市長（代理 大山副市長）のほか、来賓として農林水産大臣（代理 近藤副大臣）などの挨拶があり、次に土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰5名、農林水産省農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰48名が受賞され、本県からは、市原市市西土地改良区理事長の鶴岡和幸氏が全土連会長表彰を受賞されました。



本県から参加された皆さん（大会会場）



全土連会長表彰の鶴岡和幸氏



事業視察（農業試験場）

その他に、21世紀創造運動大賞の表彰、優良活動事例地区紹介、農林水産省農村振興局による基調報告の後、秋田県立大学の学生2人により大会宣言が行われました。

また、水土里ネット香川用水の理事長より、基幹水利施設の維持管理に関する国費での全額対応と平成21年度要求予算の確保について緊急動議が出され、決議の扱いについては役員に一任することとなりました。

式典の終わりに、次回開催県である島根県に大会旗が引き継がれ、水土里ネット島根の青木会長から島根県の紹介と次回大会への御案内などについてあいさつがあり、最後に、全国水土里ネットの笛田副会長から、10月10日に野中会長と笛田副会長が石破農林水産大臣に面会し、食料自給率向上のための耕作放棄地の解消と暗渠排水による農地の汎用化については国が責任を持って取り組んでもらいたい旨のお願いをしたところ、大臣も意は同じであり取り組んでいくとのことであったと報告がありました。

2日目の15日には事業視察が行われ、千葉県は大湊村の干拓事業と農業試験場を視察し、参加者の皆様からは有意義な視察であったとの声が聞かれました。

最後になりましたが、本大会の運営にご尽力されました水土里ネット秋田のスタッフの皆様、並びに地元関係者の皆様には大変お世話になりました。参加者一同、心よりお礼申し上げます。

水の作文

S

「水の週間」 中学生水の作文コンクール入賞作品

千葉県総合企画部 水政課

「水の日」（8月1日）及び「水の週間」（8月1日～7日）は、水の貴重さや水資源開発の重要性について国民の関心と理解を深めるため、昭和52年に閣議了解で制定され、毎年この期間に水に関する各種の啓発行事が全国的に行われています。その一環として、国及び都道府県の共催により、次代を担う中学生を対象として「水について考える」をテーマに「全日本中学生水の作文コンクール」が実施されており、本年度で30回目となります。

千葉県は広い県土と豊かな自然に恵まれているものの、県内河川の流れは短く、流域面積も小さいことなどから、水資源に関しては決して恵まれているとは言えません。このため、必要な水の約3分の2を利根川に依存しており、さらに利根川上流ダム completionにはまだ時間を要するため、十分な水が安定的に確保されているとは言えない状況です。

そこで県では、利根川上流の水源地域の方々の理解や協力をいただきながら水資源施設の建設を促進し、安定的な水の確保を図るとともに、雨水や汚水処理水の再利用等、水を大切にする節水型社会を目指しているところです。

今回のコンクールには、県内の中学校13校から総数920編の応募がありました。その中から特に優れた作品8編を千葉県地方審査会により選定し、去る8月1日にプラザ菜の花において表彰式を行いました。

ここに、最優秀賞（知事賞）の吉次由美子さんの作品と農林水産部長賞の齋藤海里さんの作品2編を、原文のまま御紹介します。

なお、吉次さんの作品は、中央審査会においても入選されました。



最優秀賞
(知事賞)

松戸市立第五中学校二年
吉次 由美子



「水に感謝し、水を意識する」

地球と他の惑星の違いを調べていた時、改めて地球が水の惑星であり、水は全ての生命の源であることを強く認識した。

水は、川から海へ流れ、やがて大気となり、雨となって、また地上に降り注ぐ。この、水を始めとした循環システムが、もしも地球上で機能しなければ、私たちの生活は混乱し、生きてはいけないうらう。

同じ太陽系の惑星でありながら、地球の隣の金星は、地球よりも太陽に近いことから地表面の温度は470度にも達する。そのため、水はなく、乾燥した大気に覆われている。とてもこの条件では、地球上のいかなる生物も生存できない。

しかし、水の惑星といわれるこの地球も、近年、深刻な水不足という事態に陥っている。異常気象による影響もあるが、よく調べてみると、世界の国々では、「水の事情」が全く違うことが分かった。

私たちが暮らす日本では、どこの家庭でも蛇口をひねればきれいな水が勢いよく出てくる。毎日お風呂にも入ることができるし、夏にはプールもある。もしも断水になればニュースになってしまう程、いつでも水が使えて当たり前の社会である。

ところが世界に目を向けると、水道の設備が整っていない国が、未だにたくさんあることが分かった。これらの国では、水を得るために大変な労力を費やしたり、時には危険な目に遭いながら水を手に入れている。中には、不衛生な水を飲んで体調を崩し、命を落としてしまうことさえある。そうした犠牲者の大半は子供である。

このようなことは、私の暮らしている日本では考えられないし、想像もできない。私自身の置かれている生活環境が、いかに恵まれているものであるかを、この調べを通して、私は知った。

私は今まで、日常の暮らしの中で節水を心掛けていたが、このことでその思いが、より一層強くなった。

ただ、そんな私でも、水を大切な資源として意識しないで使っていると、つい、うっかりとしてしまうことがある。いつも続けて意識することは、決して容易なことではないが、一番大事なことだと私は思う。

また、私一人がいくら節水したとしても、その量はわずかなもので限界がある。そこで私は節水の輪を広げていくことが重要だと考え、早速、そのことを家族に話してみた。

春には、田んぼに水が張り新しい生命が、生まれます。
夏には、田んぼから緑の葉が青々としげっていてセミが、鳴いています。
秋には、水が、ひいて青々しげっていた葉が、茶色へ変化していきます。
冬には、収穫しておいしいお米ができて、新しい生命が、春をまちます。すごいことだと私は思います。

これはすべて田んぼのおかげだと思います。そしてもっと深く行くと水のおかげと言ってもいいでしょう。

おたまじゃくしもかえるも水がある場所にしかいません。これは水のおかげですね。

もちろんヒトも水に助けられながら生きています。飲み物・食べ物・お風呂・洗い物・いろんな事に水を使っています。

でもそんな水も災害を起こすことがあります。スマトラ沖地震では大量の水が町を襲いました。その他にも洪水や水不足が多々あります。水も怖い所が、あります。けれどそれをつうじて水の大切さが、良く分かります。

私は、水不足になった事が無く、今まで、けっこうな水をむだにしてきたと思います。もう少し早く分かっていたらこんなことにはならなかったはずですが。こんなこととは、下水道です。近くの下水道を見ているとお魚が、死んでいるのをよく見かけます。それを見ると、「あーっ。かわいそうだな。」と思うだけでした。

表は、きれいな田畑が、広がっている所

裏は、お魚が、死んでいる所

どちらもいやですが、人間が水を使う以上、なってしまうことです。このままでは、かえるの声や虫が、見られなくなると思うとなにか、心でひっかかるのです。

水のある風景が、見える所が増えるのにはまず水を大切にすることです。

シャワーは、だしっぱなしにしない！

油を捨てない

ムダ使いしない！

これを守ろうと思います。

水のある風景を増やそう！！



【第14回 美しい農村環境写真コンテスト】 —表彰式を開催—

水土里ネット千葉 管理指導部指導室

美しい農村環境写真コンテストは、県内の農村の緑豊かな自然景観や農村生活の様子など、「誰もが住んでみたいと思うような農村環境」をテーマに毎年実施しており、今年で第14回となりました。

今回は51名の方々から109作品の応募があり、その中から最優秀賞（千葉県知事賞）、千葉県土連会長賞をはじめ入賞10作品について、去る8月20日にプラザ菜の花で表彰式が執り行われました。前回と同様に今回も「千葉県農村振興技術連盟委員長賞」と「千葉県農地・水・環境保全向上対策協議会長賞」を特別賞としてそれぞれの作品を表彰いたしました。



挨拶をする農林水産部寺川技監



受賞者の皆様（前列中央5名）



特別審査員の鏑山氏の作品評を
発表する豊川副会長

また、入選作品及び佳作作品は、千葉県庁本庁舎19階の県民展示コーナーに展示しましたので、表彰式終了後、展示会場で作品を鑑賞しました。



第15回写真コンテストも開催いたしますので、たくさんの応募をお待ちしております。詳しくは、開催案内のチラシをご覧ください。

第14回 美しい農村

(撮影者：敬称略)



【夏休み】

撮影場所：大山千枚田（鴨川市）
撮影者：菅原 譲太郎

最優秀賞
千葉県知事賞

出揃った稲穂が大きくS字状を描いていて、千枚田の一面であることが観える。大胆で斬新なフレーミングが効を奏した。主題の虫を探す少年達の表情も率直に描写されていて嫌味がない。画面構成が巧妙で訴迫力があり、完成度の高い作品に仕立て上げている。多くの審査委員の支持を得たのも肯ける。



【大豆収穫の頃】

撮影場所：君津市
撮影者：三沢 貞夫

千葉県土連
会長賞

広大な大豆畑の収穫風景。画面全体に軟らかい光が届き渡っていて、朝早くか曇天下でのポッチ（野積み）作りなのだろうか。俯瞰気味の的確なポジションが画面全体に奥行感を描き出している秀作。家族総出の作業の仕組みが表現されていて興味深い農村風景である。



千葉県農村振興技術連盟委員長賞

【鯉と鯉のぼり泳ぐ池】

撮影場所：大網白里町小中池
撮影者：小栗山 秀男

小さな人工池の透明感を描写した表現力は見事である。青空を反射した水面下で泳ぐ鯉と、空間に並んだ鯉のぼりの取り合わせもユニークだ。風があつて湖面がざわつくと、このような表現ができないだけに、作者の洞察の優れた配慮とレンズ・ワークを評価したい。

特別賞



千葉県農地・水・環境保全向上対策協議会長賞

【お玉じゃくし追いし春の里】

撮影場所：君津市糸川
撮影者：常住 幸太郎

畦道にそって一列に並んでいる光景。子供たち夫々の仕草が自然体でバラエティーに富んでいる。田植えが終わったばかりの水田に映し出された陰影も画面構成を引き立てている。背後の人家や新緑の山並みもフレームされて、水土里の一体感が見事に描写された作品。

環境写真コンテスト

作品 評

特別審査員：鰐山英次氏（写真家）

（撮影者：敬称略）



【霧の朝】

撮影場所：八街市内
撮影者：川嶋 かね

静寂のひと時。霧が大地を這うのは日の出前の僅かな時間でしかない。作者はこの日の朝を待ち構えていたようだ。この一枚の中に先人が改良を加え、嘗々として造り上げてきた風土の田園の風景が凝縮されている。描写力も的確で執念の秀作である。

【にぎやかな田植え】

撮影場所：君津市糸川
撮影者：中山 英樹



撮影のポジションが高いところから捉えられているので、体験農業での田植え作業の全体像が見渡せる俯瞰撮影。子供も大人も区切られた水田で苦闘している様子が窺える。構図も適切に纏められていて、珍しい農村風景の作品となっている。



【4月の風に さそわれて】

撮影場所：香取市
撮影者：西宮 美知子

田植え前の水田に水が引かれ、鯉のぼりの陰影が映える農道を老夫婦が睦まじく語り合いながら散歩している。その後を愛犬が追う。のどかな農村の一郭を抒情詩的に描写した完成度の高い作品。老夫婦の位置がもう少し右方のほうが構図として纏りがある。



【朝霧の田園】

撮影場所：鴨川市
撮影者：亀谷 修子

実りの秋が近くなり、彼岸花も開花した初秋の気配が感じられる。谷津田が広がる房総特有の山間部の田園風景を的確に区切ってフレームした秀作。谷間に漂う霧で早朝の清々しいを象徴的に捉え、棲家もフレームして描写力の優れた作品。



【案山子で居たい】

撮影場所：市原市安須
撮影者：亀谷 宏

稲穂が実り始めて、様々な案山子がコンクールのように並んでいる。そんな所で、少年たちが案山子の姿態と気分にあやかって、真似事に興じているスナップ・ショットだ。ユーモアがあり、さりげなく描写したのがよい。



【春の夕ぐれ】

撮影場所：旭市
撮影者：川嶋 康昭

区切られた長方形の大きな琴田に夕照が煌めく。一見、意外性に富んだ農村の風景だ。水田改良の最先端の光景と言えるだろう。農事に携わる人影を左下にフレームしてソツがなく、直線で構成された作品の品位を高めている。



(撮影者：敬称略)

佳作



【農休日】

撮影場所：八街市内
撮影者：川島 亥良

休日に仲間と「筍焼き」のひと時。楽しい会話のやり取りが聞こえそう。自然なスナップ・ショットが巧妙だ。



【ちょっと悪戯】

撮影場所：山武郡大網白里町
撮影者：上出 善治

爺ちゃんとお孫さんだろうか～。田植えの農機に乗せてもらい、はしゃいでいるが爺ちゃんは全てを受け入れている。画面構成が上手い。



【あじさい祭り】

撮影場所：多古町
撮影者：鶴岡 貞夫

例年、あじさいが咲く頃の風物詩となっている光景。フレームが的確に纏められていて、主題が生かされた作品



【激闘】

撮影場所：旭市大田神社
撮影者：越川 よし子

少年の相撲に少女も加わっていて、土俵際の攻防を巧みに写し出している。レンズの選択、シャッターチャンスも見事だ。



【手をつないで】

撮影場所：南房総市富浦町
撮影者：上木 良恵

山麓の家路へ向かう親子連れ。お母さんの衣服がもっと明るいと印象的な作品になった。両側の咲き誇る花畑と後方の里山の描写が良い。



【家内安全を願いながら】

撮影場所：山武郡九十九里町
撮影者：戸田 政子

獅子を舞っているのは大人か子供か分からないが、後ろの子供の表情が惜しまれる。このような伝統的な催事は撮り続けて欲しい。



初めての行事 “交流会及び講演会”を開催

ちば水土里ネット女性の会 事務局

「ちば水土里ネット女性の会」が平成20年1月31日に設立されてから初めての行事を、平成20年10月23日(木)に千葉市中央区中央のQiball内にある千葉市ビジネス支援センターの会議室で開催されました。

午前中には、県生産販売振興課の猪尾副主幹による最近脚光を浴びてきた米粉についての研修を行い、その後、米粉製品のレシピを紹介していただいた関東農政局千葉農政事務所の菱木係長による手作りのロールケーキをいただきながら、楽しく米粉についての理解を深めました。参加された会員の方々は、このロールケーキを男性がつくってくれたことにとっても感動し、その他に米粉のパンもあり、とてもおいしくいただきました。

昼休みには、Qiball内の千葉市科学館のプラネタリウムでリフレッシュタイムとして上映されている星空の観察をしました。日頃のストレスをちょっと癒されたような気がします。

午後には、栃木県にある那須野ヶ原土地改良区連合からおいでいただいた女性事務局長の星野恵美子氏より、那須野ヶ原土地改良区連合の歴史から現在までのいろいろな活動について、また、女性として土地改良区をどのように見ているか、どのように運営をしているか・・・等、講演をいただきました。

星野事務局長は、地域にある資源はすべて財産と捉え、男性には持ち合わせていない女性ならではの視点であらゆる活動を精力的にされてきております。那須野ヶ原土地改良区連合では、県外から、そして海外からといろいろなところからの視察が多くあるため、職員全員が説明者になれるように指導されているようです。

最後の意見交換のときにも、女性ならではの感性で積極的にそして前向きに業務に取り組んでほしいとまとめられました。

初めての行事でしたが、会員の中から43人と多くの参加をいただき盛大に楽しく進めることができました。これも偏に、会員の方々の参加を快く承諾していただいた土地改良区理事長を始め関係各位の方々のお陰だと思えます。今後も会員の方々との交流を深め、また役に立つ情報等がありましたら、研修会等を開催していきたいと思っておりますので、皆様方のご協力をいただきたいと思います。



印旛沼地区の県管理

当センターでは、日頃印旛沼地区で県が管理する8機場を農林振興センター所長、水資源機構所長、改良区の理事長等が参加する巡視点検を行っております。

毎年8月上旬の全国「水の週間」と「安全週間」に合わせ、管理状況の評価をするための機場コンテストを実施しており、今年は8月8日（金）に参加者50名で開催しました。

この巡視点検の目的は「県管理機場について作業・環境の安全見直し及び施設の整備点検を実施すると共に安全啓蒙と意識の高揚を図る」ことで、昭和50年から継続しており今年で34回目となります。

以前は最優秀（優勝）のみの表彰でしたが、平成16年からは印旛沼土地改良区理事長賞を、また、平成18年からは水資源機構千葉用水総合事務所長賞を両機関の協賛によりそれぞれ各賞を増やし、現在は3つの賞の表彰を行っております。

竣工が昭和40～43年に国営・公団営により造成された7機場と県営かんがい排水事業により昭和54年に造成された1機場が対象となり、その8機場を車で移動しながら行っていきます。

全体的に竣工後40年以上を経過し老朽化も目立つ施設ですが、運転管理に従事する操作員さんと地元支区の方々の御努力により適正な管理がされていますので、このような普段の御尽力に感謝し労う機会でもあります。

採点方法は...7名の各支区長と改良区理事長、水資源機構所長、農林振興センター所長の計10名が採点を担当し、評価点は機場の外周でフェンス、スクリーン等の管理・清掃状況5項目と機場屋内で機器類の清掃状況等5項目を各3点の計30点満点で採点し、合計得点の上位3機場を表彰するものです。



巡視点検風景 一本松機場
昭和42年竣工
（一本松用水支区 印旛村瀬戸）
今年も暑い中での開催となりました。

機場巡視点検の実施

印旛農林振興センター
基盤整備部 櫻井 一人

今回の結果は...

優勝の農林振興センター所長賞は、甚兵衛機場（公津支区 成田市北須賀）

2位の改良区理事長賞は、埜原（やわら）機場（埜原支区 本埜村安食）

3位の水資源機構所長賞は、吉高機場（印旛沼北部支区 印旛村吉高）でした。



上：優勝の甚兵衛機場 昭和41年竣工（公津支区 成田市北須賀）

このように、管理状況を評価し表彰を実施していることにより、管理している方々は入賞を目指し一生懸命に日頃の管理に取り組まれているようで、毎回どの機場も管理状態が良く接戦になるのですが、今回表彰された機場はその中でも特に良く管理がされていました。

真夏の午後に行う行事ですので、毎年大変暑い時季に重なり参加される方々も大変なのですが、皆様に御協力いただき今回も無事に終わることができました。

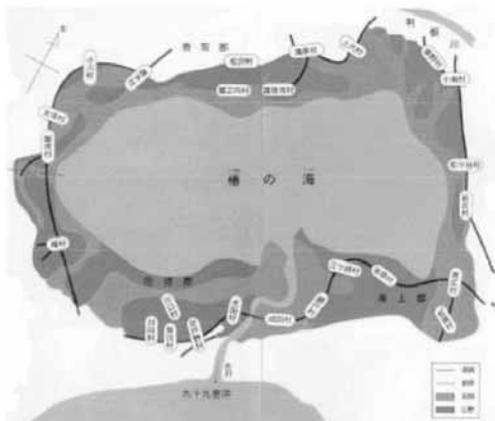


平成20年度 新規着工地区紹介

基幹水利施設ストツ

(1) はじめに

本計画地域は、千葉県東部の九十九里平野北端に位置し、江戸時代には椿海（つばきのうみ）と呼ばれる潟湖でありました。1668年干拓に着手し、干潟八万石と呼ばれる2市1町にまたがる2,740haの大水田地帯が生まれました。



干拓前「椿の海」
資料：千葉県「土地改良資料館」より

(2) 現況

この大水田地帯の中にある鍋木川排水路は、国営大利根用水事業の末端整備として、県営かんがい排水事業大利根地区により昭和50年度から昭和54年度に施工された流域面積885ha、延長約2.7kmの排水路で、流末は二級河川新川へ接続されています。排水路沿いには耕地の他に密集した集落も多く、農村地帯の重要な排水路となっており、護岸は鉄筋コンクリート造りの擁壁で築造されていますが、下流部右岸の約560m区間は宅地が密集しており、隣接土地の制約条件から軽量鋼矢板で施工されました。干拓地である当該地は土中に塩分が多く、また、施工から約30年が経過し軽量鋼矢板の腐食が著しく腐食穴などの損傷がみられ、隣接宅地が陥没するなど危険な状況にあります。現在、宅地の安全性を確保するため、大型土のう等による応急措置を講じていますが、対象区間全体の補修工事が急務となっています。



鍋木川護岸状況（大型土のう等による応急措置）



護岸下部に腐食穴

クマネジメント事業 鍋木川地区

海匠農林振興センター 基盤整備部

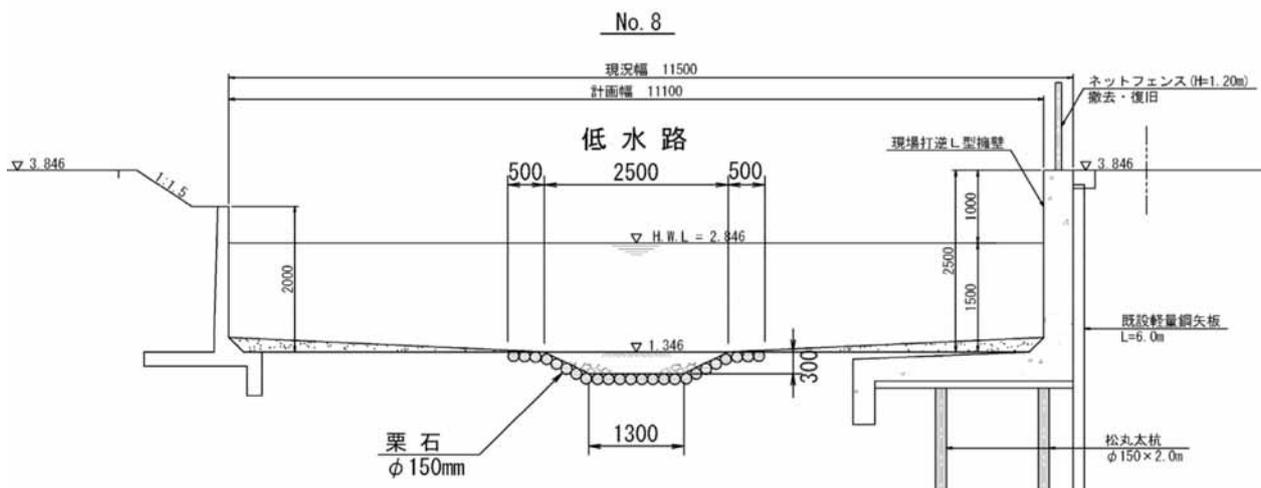
(3) 計画の概要

このため、鍋木川排水路の長寿命化、隣接宅地の安全確保を図るため軽量鋼矢板区
間右岸560mの護岸補修工事を行うと共に、付帯して下流新川との合流部の河床低
下防止及び現況護岸保全のため床止工を設置します。また、鍋木川排水路の魚類環境
に配慮して低水路を下流130m区間に設ける計画となっています。

【事業内容】

- 護岸工 . . . 鉄筋コンクリート逆L型擁壁 L=560m(右岸)
- 付帯工 . . . 床止工 N=1箇所、低水路工 L=130m(下流)
- 事業費 . . . 2億3千4百万円
- 負担割合 . . . 国50% 県25% 旭市12.5%、改良区12.5%
- 工期 . . . 平成20年度から平成22年度

標準断面図(計画)



(4) おわりに

鍋木川排水路をはじめ、耐用年数を経過した農業水利施設が増加する状況にあるこ
とから、既存施設の長寿命化、ライフサイクルコストの低減を図るため、「基幹水利
施設ストックマネジメント事業」を有効活用する地区が今後増加すると思われます。

そのためにも、本地区が良い事例となるよう実施してまいります。

平成20年度 新規着工地区紹介

経営体育成基盤整備

【はじめに】

太平洋に面した九十九里浜より内陸部に約11km、二級河川栗山川の左岸で横芝光町に展開する平坦な低湿地であり、平成20年度に経営体育成基盤整備事業（集落営農型）篠本新井地区（231.9ha）として採択されました。

本地区は、昭和16～20年に非補助土地改良事業により10a区画の水田として整備され、今日までの60年間、町を代表する優良な水田地帯として稲作経営が行われてきました。しかし近年、農家の兼業への傾注、若い就農者の減少、担い手の高齢化、米価の低迷など農業を取り巻く環境が深刻となっています。

このような中で、平成14年6月にほ場整備準備委員会が設立され、事業化に向けて努力がなされてきました。

これと並行して、国営かんがい排水事業 両総地区の栗山川統合機場計画が具体化したことにより、統合機場と基盤整備計画を連携して進めることで地元の合意形成が図られ、今日までに54回にわたる協議を重ね本年度の事業採択に至りました。

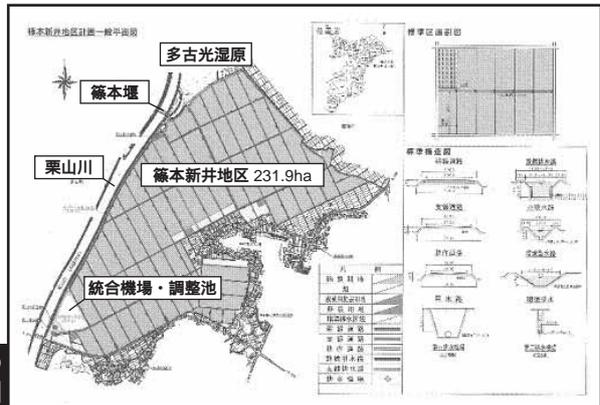
【事業の概要】

事業地域	山武郡横芝光町篠本、新井地先	231.9ha
事業費	35億5千万円	
負担割合	国50% 県30% 横芝光町10% 土地改良区10%	
工期	平成20年度から平成25年度	
関係土地改良区	篠本新井土地改良区（権利者362名）	
主要工事	整地工	231.9ha（田：222.3ha 畑：9.6ha）
	暗渠排水	222.3ha
	道路工	25.0km（アスファルト舗装、砕石舗装）
	用水路工	20.0km（統合機場からの給水、パイプライン）
	排水路工	22.3km（柵渠、U字溝、環境対応型護岸）
	排水機場	2箇所（ポンプ口径 600～900mm 5台）

栗山川沿いの農地は標高が低く大雨の度に湛水被害が生じている。被害解消のため堤防には3箇所排水ポンプが設置されており、強制排水を行っている。

非農用地の創設 は最終取得予定者
国営統合機場調整池・
機場用地他7.6ha 農林水産省
営農施設用地（3箇所）
0.9ha 各工区農業法人

篠本新井地区の
計画一般平面図



事業(集落営農型) 篠本新井地区

山武農林振興センター基盤整備部 地域整備課

【地区の特徴】

国営事業との調整

国営事業である両総地区の統合機場用地等を基盤整備事業で非農用地として生み出す。
 (統合機場とは、栗山川の篠本堰で取水している多古支線、南条支線及び篠本新井地区の1千haを越える受益の各取水施設を統合すると共に、堰から下流の受益地における不足水を調整池に貯留し、栗山川に注水する施設。)

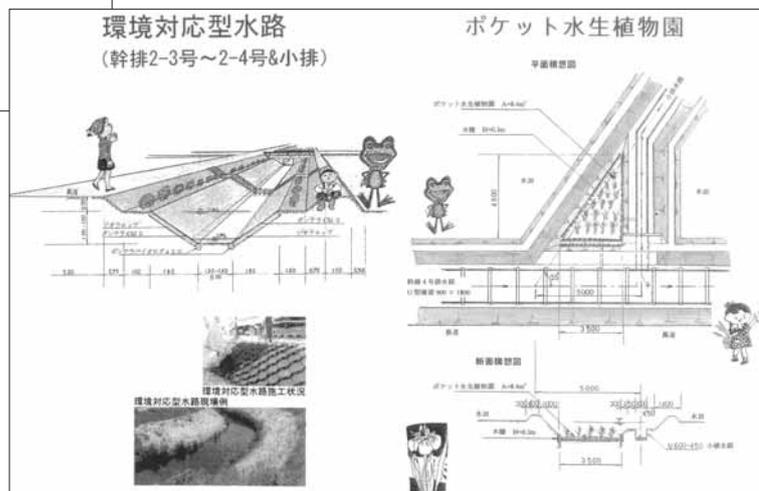
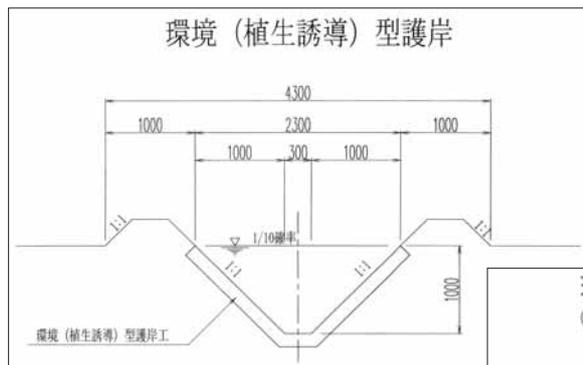
集落営農

集落営農型で事業実施する地区としては本県で初めてである。

地区内に3つの営農組織を立ち上げ法人化を目指す。

環境への配慮

広大な本地区には多種多様の生物が生息している。隣接する多古光湿原には貴重な植物が確認されており、生態系・自然環境に配慮した環境対応型工法の採用やビオトープ用地を確保する。



【終わりに】

本地区はまだ採択されたばかりであり、組合員の意識高揚のため去る10月4日に全組合員を対象にして事業説明会を開催しました。併せて農山村地域経済研究所長の楠本雅弘氏を招いて「篠本新井地区の21世紀農業戦略」と題してご講演を頂きました。これからの基盤整備事業を契機に農地の大型化・集団化、経営規模の拡大を図り農業の担い手を育成し、地域一丸となって新たな農業を目指したいと考えております。

農地・水・環境保全向上対策推進のため



去る8月30日、連日35度を超える猛暑が続く一方で突然の局地的短時間集中豪雨で日本の至る所で災害が発生するなど、天候が不安定な状況ではありましたが、袖ヶ浦市において農業体験バスツアーを開催いたしました。



今回のバスツアーは、生活協同組合ちばコープの協力により参加希望者を募集し、抽選の結果県内の親子40名(大人17名・子供23名)の参加をいただきました。

農業体験メニューは、稲刈り体験やコンバイン試乗会など野外を中心とした作業のため始まるまで天候が気がかりでしたが、当日は大きな天気の流れもなく、コンバイン試乗会を除いて、所期の目的を達成することができました。



参加された子供たちは4～12歳でしたが、現地到着後、袖ヶ浦市大鳥居環境保全会構成員のほ場において同伴の両親達と一緒に、農家の方から鎌の使い方を教わり、慣れない手つきで鎌を右手に、稲株を左手に握っての稲刈り体験をしました。



稲刈り体験が初めての皆さんは非常に楽しそうに大つぶの汗を流しながら稲穂を刈取っていました。また、刈り取った稲穂をスゲ縄で束ね「おだ」にかけて干す作業まで行いました。稲刈り体験を終えるころ雨が強くなり、雨宿りのテントの下で、地元で採れた美味しいスイカを食べていただきました。



めの農業体験バスツアーを振り返って

千葉県農地・水・環境保全向上対策協議会事務局



その後、県営田園空間整備事業で造成された農村公園「ひらおかの里」へ移動し、足踏み脱穀機や「せんば」で稲穂の脱穀、稲ワラを使った縄づくりなどの細工実習をいたしました。

多くの皆さんは初めての体験であったこともあり、農家の指導を受けて真剣に取り組んでいました。

また、刈り取った稲穂を体験記念に持ち帰っていただきましたが、お米ができるまでの課程が実体験を通じて理解できたのではないのでしょうか。



お昼は新米（ふさこがね）のおむすび、古代米を絡めたおむすび、釜炊きでできたおこげのおむすび、そして美味しいカレーライスをいただき、地元のトマトや瓜の漬け物などもたくさん食べていただきました。

さらに、米粉パンの試食もあり、地元産の多くの食材を使ったおいしい昼食会となりました。

将来を担う子供たちに日頃無意識のうちに食べている「ご飯」がどのようにできあがるのかよく理解できたのではないかと考えております。

車中においては、参加された皆さんにお米の生産に至る過程と合わせて「農地・水・環境保全向上対策」の活動内容やその活動による成果について、パンフレットなどでわかりやすく説明いたしました。

皆さんには、相応の関心を持っていただけたものと考えております。



今後とも、創意工夫を凝らして本対策を踏まえた各種イベント等を広く県民・地域住民へ、アピールしていくことが大切であると痛感いたしました。

最後に、今回のバスツアーでお世話になりましたちばコープをはじめ、袖ヶ浦市及び大鳥居環境保全会の皆さん、地元関係者の方々に感謝を申し上げて、報告とさせていただきます。



第15回

美しい農村環境写真コンテスト



「誰もが住んでみたい美しい農村環境」をテーマに写真コンテストを開催しております。

あなたが見つけた美しい農村環境や農村におけるさまざまな動きを写真にとって応募してみませんか？

千葉県内で撮影したものであればどんな写真でも構いません。

優秀作品には賞状と副賞を、また応募していただいた方全員に粗品を呈いたします。



第14回
知事賞の
写真



第14回
土連会長賞
の写真



応募規定

- 作品規格：四切り（ワイド可）のカラープリントで単写真
- 応募作品：未発表のもので1人3点まで
裏面に「題名、撮影場所、応募者の氏名・住所・年齢・電話番号」を記入したものを貼付してください。人物が被写体の場合は、本人から応募の承諾を得てください。
- 応募作品は原則として返却しません。
※返却を希望する場合は、送料相当分の切手を貼った返信用の封筒を同封して下さい。
- 入選作品：1人1点までとします。
著作権は主催者に帰属してもらいます。ネガ、ポジ原版またはデータを提出してもらいます。

応募締切

平成21年6月30日
(当日消印有効)

入選点数

- 最優秀賞（千葉県知事賞）・・・1点
- 千葉県土連会長賞・・・1点
- 特別賞・・・2点
- 金賞・・・1点
- 銀賞・・・2点
- 銅賞・・・3点
- 佳作・・・数点

応募先

〒261-0002 千葉県美浜区新港249-5
水土里ネット千葉
(千葉県土地改良事業団体連合会)
管理指導部指導室指導班
TEL.043-241-6639

■たくさんの方々からの応募をお待ちしております■

水土里ネットちば 281号 (平成20年10月31日発行)



発行

水土里ネット千葉（千葉県土地改良事業団体連合会）
〒261-0002 千葉県美浜区新港249番地5
TEL.043-241-1711(代) / FAX.043-248-2563(代)

印刷

株式会社ニッセイアド
〒264-0026 千葉県若葉区西都賀4-18-3
TEL.043-206-7752 / FAX.043-206-7753